上越交響楽団
第60回定期演奏会

The 60th

joetsu symphony orchestra regular concert

■プログラム

ボロディン／交響詩「中央アジアの平原にて」
チャイコフスキー／バレエ組曲「眠りの森の美女」より
ボロディン／歌劇「イーゴリ公」より
ドヴォルザーク／交響曲第3番 変ホ長調 作品10

日　時　2007年9月23日(日)
13:30開場／14:00開演

会　場　上越文化会館 大ホール

■指　　揮／吉井 俊哉
■客演コンサートマスター／三溝 健一
■主　　催／上越交響楽団

上越交響楽団　団長

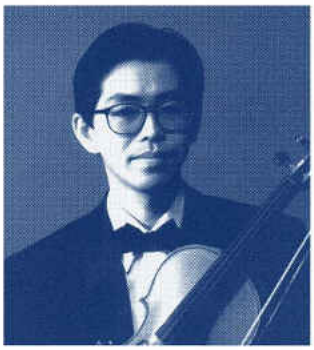
古　海　法　雲

皆様、上越交響楽団の第60回定期演奏会にお越しくださいまして真に有難うございます。今回は記念すべき60回目の定期演奏会です。ではありますが特別な企画を立てず、地道な練習を繰り返し一歩でも質の高い演奏に近づく節目と思っています。
お陰様にて昨年暮れと今年5月にはプロの客演指揮者と競演して高い評価をいただきました。
全員が揃って練習する時間は週一回、本当に全員が揃うのは本番前日がやっとというオーケストラではありますが、それぞれが仕事などの合間に時間を作って練習をしています。オーケストラは全員で演奏して一つの楽器のようなものですから、皆に迷惑をかけない様に先ず練習しなければなりませんが、それが毎回の練習を楽しくしてくれます。長く続けることと一歩一歩の積み重ねが芸術なんですね。
今回はドヴォルザークの交響曲第3番というほとんど知られていない曲に取り組みました。しかし聞いてみれば中々の名曲です。練習を続ける毎に曲が分かってくると楽しみが増えてきます。練習に熱が入るというものです。会場に来られた皆様と楽しめたら素晴らしいですね。よろしくお願いします。

常任指揮者

吉井　俊哉
Toshiya Yoshii

1959年高田市(現上越市)に生まれる。小学校では鼓笛隊でトランペットを吹き、城南中学校では吹奏楽部でテューバを吹き部長を務める。高田高等学校に進学し器楽部に入部するとともに上越交響楽団に入団。
1978年明治大学工学部建築学科入学。青山学院大学管弦楽団に団友として参加するとともに、上越交響楽団での活動を続ける。明治大学を卒業後、上越市に建築技師として採用され市役所に勤務する。1級建築士、建築基準適合判定資格者の肩書きを持つ。
2002年上越市および韓国浦項市で開催された日韓フレンドシップコンサートにおいて、栗山和樹作曲 "ソロバーカッションとオーケストラのための「青邸の美しい庭」" の指揮を務める。以降も常任指揮者として上越交響楽団の指導にあたり、2004年に上越市で再び開催された日韓フレンドシップコンサートの指揮を担当し好評を博す。



客演コンサートマスター

三溝　健一
Ken-ichi Samizo

4歳よりヴァイオリンを始め、正岡紘子、天満敦子、山岡耕祚の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学において井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。この間、肥沼きよ、竹内邦光、松本紀久雄、汐澤安彦、丸山嘉夫の各氏にピアノ、ソルフェージュ、指揮法、音楽学を師事。
1986年に設立の弦楽合奏団「ENSEMBLE藝弦」では首席第2ヴァイオリニストとプロデューサーを兼任、92年には委嘱作品数曲をも携え北米演奏旅行を成功させる。92年に設立したピアノアンサンブル「室内楽"EAU"」、99年に発足した室内楽団「音泉室内合奏団」ではコンサートマスターと音楽監督を兼任、そのレパートリーは小編成の室内楽曲から交響曲にまで及び、編曲も手掛けている。
ソロでは、ヴァイオリン協奏曲(ブルッフ、メンデルスゾーン、バッハ)、天満敦子氏と共演の2つのヴァイオリンの為の協奏曲(バッハ、ヴィヴァルディ)、オルガニストの保田紀子氏との共演(ヘンデル、ヴィターリ、プニャーニの作品)、指揮者G.コラヤンニ氏との共演(ヴィヴァルディの協奏曲)、リムスキー=コルサコフの交響作品のソロ(シェエラザード、スペイン奇想曲)、その他にも多くの共演や作品・小品の既演が挙げられる。
一方「松本交響楽団」をはじめ関東甲信越の多くの市民・学生オーケストラにおいて常任或いは客演コンサートマスター、副指揮者、指導者としてその活動の発展に力を注いでおり、新潟県内では本団及び「柏崎フィルハーモニー管弦楽団」においてその任に就いている。
加えて、初心者から音楽家志望者に至るまで幅広く後進の育成にもあたっている。
足立シティオーケストラ／常任コンサートマスター、副指揮者。音泉室内合奏団／コンサートマスター、音楽監督。池袋音楽学院／講師。"Gruppo Violini"／講師。

プログラム

曲目解説

アレクサンドル・ボロディン
Алекса́ндр Бороди́н
●ロシア●1833～1887

交響詩「中央アジアの平原にて」

ボロディンは19世紀後半に活躍したロシアの作曲家です。本業は医科大学の化学者であり完成作品は多くありません。この曲はリストにより広められた交響詩の形式をとり、1880年リムスキーコルサコフの指揮で初演され、その翌年リストに献呈されました。
まず木管楽器によってロシアの旋律が奏され、その後アジアの隊商の足音を表す弦楽器のピッチカートにのって、アジアの旋律がイングリッシュホルンにより奏されます。これらが繰り返されまた溶け合いながら、最後はまた静かに平原に消えるように終わります。

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
Пётр Ильич Чайковский
●ロシア●1840～1893

バレエ音楽「眠りの森の美女」管弦楽用組曲作品66aより

バレエ「眠りの森の美女」は、帝政ロシアの首都サンクトペテルブルグのマリンスキー劇場の依頼により、ペローの童話もとに作曲され、1890年初演されました。バレエは3時間に及ぶ大作ですが、チャイコフスキー自身が5曲を選んで演奏会用組曲としています。本日はそのうち4曲を演奏します。

1.序奏、リラの精（第1幕より）
オーケストラの強奏による邪悪な妖精カラボスの主題に続き、イングリッシュホルンによる善の妖精リラの主題が提示され、大きく盛り上がります。

2.パ・ダクシオン：バラのアダージョ（第1幕より）
ハープのカデンツァに引き続き、チャイコフスキーならではの美しいメロディが弦楽器により奏されます。バレエではオーロラ姫が4人の王子に支えられながら優雅に踊る見せ場でバラのアダージョと呼ばれています。

3.パノラマ（第2幕より）
王子が妖精リラに導かれ、真珠貝の船に乗りオーロラ姫の眠る城に向かう情景の音楽です。

4.ワルツ（第1幕より）
チャイコフスキーによる数あるワルツの中でも「くるみ割り人形」の「花のワルツ」と並んで特に有名な音楽です。

休　　憩

アレクサンドル・ボロディン
Алекса́ндр Бороди́н
●ロシア●1833～1887

歌劇「イーゴリ公」より「ダッタン人の娘の踊り」「ダッタン人の踊り」

歌劇「イーゴリ公」は中世ロシアの「イーゴリ遠征物語」を元に作曲が開始され、1887年ボロディンの死後、リムスキーコルサコフとグラズノフが補筆し、1890年サンクトペテルブルグ、マリンスキー劇場で初演されました。「ダッタン人の踊りと合唱」はこの歌劇の中で最も有名な曲で、合唱なしの独立した管弦楽曲「ダッタン人の踊り」として多く演奏されます。
本日は急速で軽快な「ダッタン人の娘の踊り」に引き続き休みなく、この「ダッタン人の踊り」を演奏します。木管楽器の旋律によるゆったりとした序奏、勇壮な中間部、急速な踊りの音楽からなり、一気呵成にフィナーレとなります。なお、原題は「ポロヴェツ人の踊り」といいます。「ダッタン」と「ポロヴェツ」は実はまったく違う民族なのですが、日本では慣用的に「ダッタン人の踊り」で有名になっており、今回もこの呼称を用います。

アントニン・ドヴォルザーク
Antonín Dvořák
●チェコ●1841～1904

交響曲第3番 変ホ長調作品10

ドヴォルザークは有名な「新世界」交響曲を筆頭に多くの佳作を生み出した19世紀後半を代表する作曲家です。しかし、第7番以降の後期交響曲と比較し、初期の作品の知名度は低く、今回演奏する第3交響曲も実演に接する機会はまれです。この曲はドヴォルザークが結婚する前後の1870年頃から1873年かけて作られ、1874年3月スメタナの指揮で初演されました。また同年、この第3交響曲他によりオーストリア政府の芸術家奨学金を得ており、ドヴォルザークの出世作といえる作品です。ワーグナー、シューマンなどの影響が色濃く感じられ、後期の作品のような民族的な「ドヴォルザーク節」はまだ前面には出てきません。曲は全3楽章からなり、それぞれの楽章が異なる性格を有しています。

第1楽章／アレグロ・モデラート
冒頭からバイオリンとオーボエにより提示される第一主題と緩やかな下降音形による第二主題からなるソナタ形式の楽章。

第2楽章／アダージョ・モルト、行進曲のテンポで
ゆっくりとした葬送行進曲、中間部は変ニ長調となり独特の明るさが感じられます。

第3楽章／フィナーレ、アレグロ・ビバーチェ
ロンド楽章、軽快な付点リズムが繰り返され、最後は華やかなクライマックスを迎えます。

出　演　者

客演コンサートマスター …… ●三溝　健一

第1ヴァイオリン …… ●上野　圭子　●加藤　由香里
●小菅　宏造　●小松　真澄
●田村　さやか　●田村　元
●橋本　士郎　●横田　幸恵
●岩田　貴守＊

第2ヴァイオリン …… ●青木　由美子　●泉　紀子
●桐原　雅史　●黒坂　瞳
●坂口　和久　●田中　教生
●藤原　満　●山川　美沙紀
●吉崎　香織　●綿貫　綾音
●本間　久貴＊

ヴィオラ …… ●稲田　由佳　●佐藤　洋隆
●中村　逸郎　●古海　法雲
●横田　裕祐　●渡辺　みほ
●大庫　るい＊　●宮入　徹＊
●宮入　理恵＊

チェロ …… ●Ivan Brown　●稲井　進
●上野　敦子　●桑原　直子
●佐藤　慎悟　●惣塚　弘
●高橋　文子　●古川　純子
●瀬高　伸一郎＊

コントラバス …… ●秋山　雅央　●飯塚　樹
●小柳　茂　●吉崎　須賀子
●渡辺　光　●松原　直之＊

フルート …… ●齊藤　孝久　●山崎　美也子＊
●堀井　康子＊

オーボエ …… ●羽賀　純子　●橋本　直子
●皆川　正弘　●皆川　未央

クラリネット …… ●齊藤　直美　●菅野　真木子
●鈴木　和久　●富田　洋加

ファゴット …… ●宮口　弘明　●吉越　梓

ホルン …… ●笹川　修一　●須田　孝義
●堀川　恵　●森　真人
●綿貫　英紀

トランペット …… ●梅山　英行　●神戸　正雄
●菅野　徳嗣　●梅澤　奈緒美＊
●西山　岳志＊

トロンボーン …… ●笠野　光雄　●山川　伸一
●松本　啓＊

チューバ …… ●若井　一也＊

パーカッション …… ●阿部　真代　●稲田　善智
●小島　章子　●藤澤　紀章
●綿貫　佳子

ハープ …… ●川村　文乃＊

50音順　＊は賛助出演ならびに団友

上越交響楽団

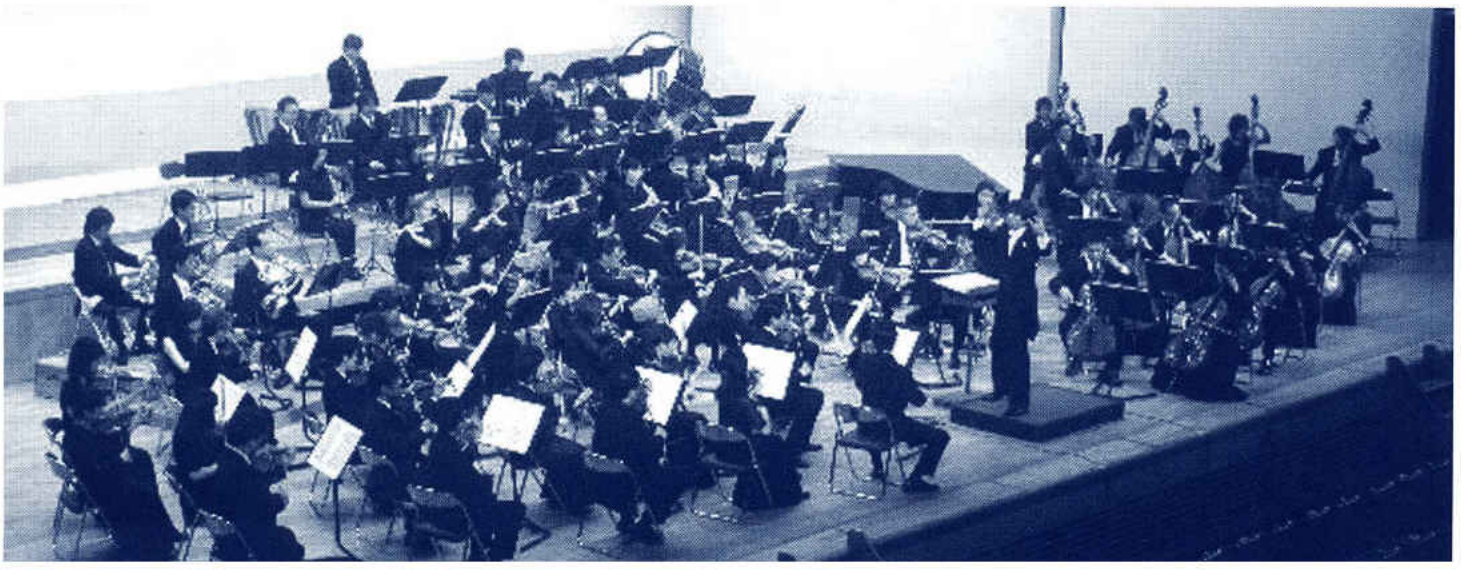
上越交響楽団は上越市を中心に音楽を愛する仲間が集い1972年に結成されたアマチュア団体です。結成当初から毎年開催し今回で60回を数える定期演奏会や、1989年から県民文化祭として各地で開催された演奏会を通して皆様に親しまれてまいりました。

アマチュアの団体が長期間活動を継続するには苦労もあります。それぞれの団員が仕事や勉学をやり繰りして、質と達成度の高い音楽を表現すべく様々な楽曲にチャレンジしてきました。編成は室内楽から大編成の楽曲まで、レパートリーは古典のモーツアルトやベートーベンから、難易度の高いマーラー、ブルックナーやストラビンスキーまで多岐にわたります。

2002年から吉井俊哉氏を常任指揮者に、2005年から三溝健一氏をコンサートマスターに迎え、ますます充実した活動を展開しており、最近の活動としては本年5月に真宗大谷派高田教区主催の親鸞聖人越後御流罪800年記念大会において「花こぶし合唱団」及び「大阪御堂合唱団」と共に、渡辺愛子作詩／安谷屋武人作曲による交声曲「花こぶし」を初演し好評を博しました。

団員募集のご案内

上越交響楽団では団員を募集しております。
通常オーケストラで演奏される楽器であれば、どなたでも入団できます。
素敵で愉快な仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。
団員一同心より歓迎いたします。

連絡先

事務局長／梅山　英行
TEL:025-525-8415
E-mail:umebflat@gmail.com